

比較地域特殊研究

担当者 梅野 巨利

開講時期 通年

単 位 4

特殊研究は1～3年次の3年間を通して行われる演習科目です。

●講義の概要

各自の研究テーマに沿って研究報告と議論を積み重ね、最終的には博士論文の完成を目指す。資料収集の方法、資料の分析、論文の構成と記述方法など、受講生それぞれの研究進捗度合に応じて講義を進める。

●講義の到達目標

オリジナリティのある質の高い博士論文を作成すること。

●講義計画

受講生の研究報告をもとに議論を深め、博士論文の内容の精緻化と論文としての完成度を高めていく。学会報告や学会誌への投稿も行うことで、外部からの、より多くのコメントや知見を得ながら、博士論文の完成を目指す。

1年次は、研究テーマの絞り込みとそのために必要な先行研究レビューを中心とする。

2年次は、研究対象への実態調査やフィールドワークを中心に行い、それらの結果を学会発表や論文の形で取りまとめる。

3年次は、論文全体の構成や論旨一貫性に重点をおいて、博士論文の全体を書き上げていく。

●成績評価基準と方法

博士論文作成への取組具合や研究報告内容にもとづいて判定する。

受講生が毎回の報告準備をしっかりと行い、より良い報告内容となるよう努力している (50%)

受講生の学会発表や論文において独自性や論旨一貫性が保たれながら、論文全体として完成度が高まっている (50%)

●テキスト又は参考文献

適宜紹介・指示する。

●受講上の留意点

博士論文は、これまでの研究の積み重ねの結果である。根気と地道な努力が求められる。すぐに成果を求めず、じっくり深く考え、論文作成に取り組んでもらいたい。